

THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO-GREEN

東京グリーン

CHARTERED 1973

< 2022.10 >

BULLETIN

2022年7月～2023年6月



国際会長 K・C サミュエル 「フェローシップとインパクトで次の100年へ」(インド)
アジア太平洋地域会長 シェン・チ・ミン 「新しい時代と共にエレガントに変化を」(台湾)
東日本区理事 佐藤重良 「未来に向けて今すぐ行動しよう」(甲府 21)
関東東部部長 工藤大丈 「新規技術(テクノロジー)を縦横に駆使し、効率を重んじる。
すべては、プレミアムな価値と体験を産むために」(東京ベイサイド)
クラブ会長 樋口順英 「安全・愉快・安心」(東京グリーン)

会長 樋口 順英
副会長 青木 方枝
書記 布上 征一郎
会計 柿沼 敬喜
監事 柿沼 敬喜
監査 西澤 紘一
担当主事 木村 卓司

10月 スポーツの秋

「競技場で走る人たちは、皆走っても賞を受ける人は、ただ一人だと言うことを知っているでしょう。ですからあなたがたも賞をうけるように走りなさい」
(コリントの信徒への第1の手紙9章24節)

：何を目標にして走るのかを考えなさい。無為に日を過ごすことのないように。

2022年10月例会

日時：2022年10月19日(水) 18:00～20:00

場所：東京 YMCA 東陽町コミュニティーセンター

受付：青木君、進行：西澤君

開会点鐘 樋口会長

ワイズソング・ワイズの信条 全員

聖句・お祈り 西澤君

ゲスト・ビジター紹介 樋口会長

ゲストスピーチ

東京 YMCA 国際ホテル専門学校校長 小畑 貴裕 様

演題「外国人留学生にスキルをつけるしごとの大切さについて」

報告

・神田川催行準備状況

・50周年記念行事検討

Happy Birthday (3名：柿沼 澄子メネット、

古平 邦子メネット、高谷 禎宣メン)

YMCA 情報 木村君

閉会点鐘 樋口会長

【例会出席率】 在籍：15名 9月出席率6/12 50%

出席：9月リアル例会(東京 YMCA 東陽町センター)

(メン6名、メネット0名) 計 6名

【ニコニコ】 5,500円

10月の強調月間テーマはASFです

Alexander Scholarship Fund.

ワイズメンズクラブ創始者P. W. アレキサンダーを記念して設置された国際協会の基金。

東日本区ではCS資金と合わせて[CS・Yサ・ASF基金]として運営し、地域社会奉仕事業、YMCA サービス事業、および YMCA が行う主事研修等に用いている。

[ハンドブック・ワイズ用語より]

雑感 献金と寄付金

西澤 紘一

山上徹也が安倍元総理を銃撃したことで、その裏に統一教会問題が再燃してきた。統一教会の最大の問題は、強制献金である。先祖の怨念解除と言う名目で、信者の恐怖と贖罪に訴えて多額の献金を信者に求めることである。その結果、家庭崩壊、自己破産、子供たちの未来を奪うなどの社会的弊害が出てきている。借金までさせて多額の献金をさせる手口は、詐欺的でさえある。

もちろん我々にも弱者への救いの気持ちは持っている。募金箱にお金を入れる時は、少々痛感を覚えるが、しばらくすると何とも言えない爽快さを感じるものである。ましてや募金相手から感謝の言葉を聞くことは至福の時でもある。

[次ページにつづく]

【前ページからつづく】

一方で多額の献金や寄付金には自らの自尊心を満足させると言う負の側面もある。つまり『私は、他の誰よりも多額の献金・寄付金をした。神はほめて下さるはずだ!』という驕りの気持ちである。献金・寄付金とは、自らの自己愛、エゴとの戦いでもある。もちろん、喜んで自分の持てるものから出来るだけ多くを捧げることは尊い。しかし自分の裁量・責任範囲を超えて献金・寄付金を捧げることは、本来の趣旨を逸脱していると言わねばならない。ましてや強制力、同調圧力下での捧げものは、受けた側にも喜びはない、

結局、献金や寄付金を捧げる行為は、自己愛(自己満足)と克己心(犠牲心)とのギリギリの接点を求めてゆく事であろう。ワイズへ捧げる数多くの献金、寄付金についても、考えてみたい。(西澤 記)

◆2022年9月 第一例会 報告



9月第一例会は9月19日(水)17:00~19:00東陽町コミュニティーセンターにて行いました。

出席は、青木、柿沼、西澤、根本、木村、樋口、各メン、ゲストに東京 YMCA にほんご学院校長望月 温様、およびビジター関東東部会員増強事業主査 金丸満雄(ひがし)メンの合計8名でした。

はじめに EMC 強調月間にちなみ金丸メン(写真右)から、関東東部の活動の柱である「ハンドロップ」運動につき改めて要請がありました。



続いて、当日のゲストスピーカーに、にほんご学院校長、望月 温 様(写真右上)をお招きし、日本語学校と留学生をめぐる現状と課題につきお話をお伺いしました。演題は「日本語学校と留学生の基礎知識」。

国内の日本語教育、留学等の制度上の問題はありますが、一生懸命日本語を学ぶ留学生さんと出来るだけ同じ目線で接し、各自が相応のサポートし日本のファン



をつくるのが大事だと思いました。

要旨は以下の通りです。

- 1) 日本語学校は、昨今コロナ禍により留学生が激減、エージェントへの仲介手数料値上り等もあり経営がきびしくなっている。
- 2) 日本語学校側から見た留学生の課題として、
 - ① 非漢字圏学生には2年間での現行カリキュラム修了は難しい。
 - ② アルバイトに時間制限(28h/w)があり、生活が苦しい人もいる。
 - ③ 優秀な人材の日本定住のしかけが必要である。
- 3) 日本文化の最大の特徴は「寛容性」である。多様性を認め、異なる文化を排他的に扱うことなく受け入れ、自国の文化と融合し、ハイレベルに昇華させることにより、外国人財を受け入れ、共生したいものだ。

その他、以下の件につき、報告がありました。

- ① 50周年記念例会を2023年3月21日(祝)に開催することとし、会場を確保しました。アトラクションはピアノ三重奏団(トリオ)を検討中です。
- ② 神田川船の会を11月5日(土)催行、今回は延期のための予備日を11月20日(日)に設定しました。
- ③ 9/23~25熊本で開催の第53回全国 YMCA リーダー研修会に交通費協力金1万円をサポートしました。(樋口 記)
(写真左 Happy Birthday! 9月生まれ、西澤メンにプレゼント贈呈)



☆☆☆☆ <ご出席のみなさま> ☆☆☆☆

柿沼メン

木村メン

根本メン



青木メン

西澤メン

樋口メン

◆2022年10月 第二例会 報告

2022年10月12日(水)15:00~17:00 Zoom開催
出席者は、青木、目黒、佐野、西澤、柿沼、木村、樋口

1) 10月19日(水)10月第一例会は、リアルで東陽町センターにて行います。時間は、18:00~20:00。

◆ゲストスピーカー:東京YMCA国際ホテル専門学校校長 小畑 貴裕 様(元東京グリーン担当主事)

2) 10月5日(水)14:30~Zoom、神田川委員会報告

① 11/5(土)神田川船の会募集状況等確認。

② 千代田区立昌平小学校の課外船上学習決定
10/13事前説明、10/17(予備日:10/24)実施します。

③ 古いライフジャケットの処分の件、船の会では使用予定ないので、YMCAに処分一任します。

3) 11/5(土)DBC京都パレスクラブとの交流会
船の会終了後行います。(場所;浅草神谷バー)

4) 第26回関東東部部大会は、10月1日(土)10:30~
Zoom開催、出席者:樋口、青木、柿沼、佐野、木村

5) 東京グリーンメネット会は、当面休会とします。

(樋口 記)

◆10月第一例会のゲストに小畑 貴裕さん

10月19日(水)10月第一例会のゲストスピーカーとして、



東京YMCA国際ホテル専門学校校長 小畑 貴裕 様をお招きいたします。演題は「外国人留学生にスキルをつけるしごとの大切さについて」です。

今回は、にほんご学院を卒業した留学生が専門学校へ進むプロセスで、

ホテル学校の現状と就職支援の問題点等について伺います。(樋口 記)

◆第26回関東東部部大会出席報告

10月1日(土)10:30~13:30 Zoomミーティング開催

出席者:37名(うち東京グリーン出席者:5名)

・第一部 ベイサイドからの提案(10:30~12:00)

「Somethin else? を考える」をテーマとし、関東東部として一体で行う「清掃作業」の提案につき、4グループに分れて、その具体的なやり方等の討議を行いました。出席者全員が発言できる斬新な運営でした。

・第二部 部大会(12:10~13:30)

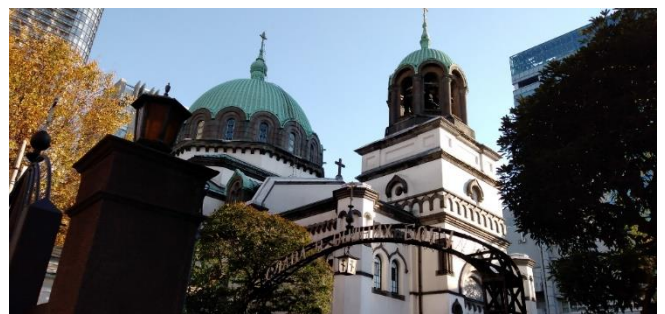
工藤部長の開会点鐘に始まり、部長報告、事業主査報告、アピール等と続き、次期部長長尾君による点鐘にて閉会しました。(樋口 記)

◆神田川船の会の活動状況

(実行委員会メンバー:*目黒、布上、早瀬、柿沼、樋口各々 *委員長)

先月号で11/5(土)第86回神田川船の会の催行の概要が紹介されていますが、目下、乗船者募集の最終段階。参加いただくのは、一般公募、ワイズメンズクラブ(特に、京都パレス、東京西など)、グリーン関係者の紹介による方々です。

コロナ禍や大型台風の影響で開催出来ぬケースが続いたせいか、“客の戻り”が十分とは言えないのですが、固定ファンもあり、なんとか成功裡に仕上げたく思っています。新装なったガイドブックも含めて、多くの先達の成果を繋げてまいりたい。



(写真は神田駿河台・ニコライ堂)

ずっと前から神田川に聖橋は架かっていて……もうすぐ貴女が好きだった東京復活大聖堂の秋、「ニコライの鐘の愉(たの)しき落ち葉かな」(石田波郷)の季節です。その残日の駿河台を二人で歩こう。

「日残りて昏(く)るるに未(いま)だ遠し」

(藤沢 周平著「三屋清左衛門残日録」より)

(目黒 記)

◆設立50周年記念例会準備委員会お知らせ

(準備委員:樋口、青木、布上、目黒、柿沼各々)

1) 記念品(日本手拭い)の先行発注

委員会として、記念例会の関係者への贈呈用として、1ロット(110本)分を、値上がり懸念して早めに発注させていただきました。また、クラブ名等の文字や絵柄は既成のクラブの半纏と同色(緑色)とし、布地は特岡(浴衣地)に決めさせていただきました。

2) アトラクション演奏曲の打ち合わせ

今月中に、アトラクションをお願いするクラシック演奏者(ピアノトリオ=ピアノ、バイオリン、チェロ)と選曲等の打ち合せ予定です。できるだけポピュラーな曲をと考えております。なお、リクエスト曲があれば、提案してみますので、お申し出下さい。

(柿沼 記)

VIVA CLASSICAL

秋に味わう、ピアノトリオの最高峰
ベートーヴェンの「大公」



L・v・ベートーヴェン作曲(1770-1827)

ピアノ三重奏曲第7番変ロ長調 OP97「大公」(1811)

演奏:スーク・トリオ (1961録音)

バイオリン:ヨゼフ・スーク(1929~2011)

ピアノ:ヤン・パネンカ(1922~1999)

チェロ:ヨゼフ・フッフロ(1931~)

ベートーヴェン41才、最も充実した時期の作品です。
「大公(Archduke)」の由来は、ハプスブルグ家ルドルフ大公(1788-1832)に献呈されたことによります。

彼はオーストリア帝国皇帝レオポルド2世(1747-1792)の末っ子で、ベートーヴェンのウィーンにおけるパトロンでありピアノの弟子でもありました。同時期に、「皇帝」「ミサ・ソレムニス」「ハンマークラヴィール」など、ベートーヴェン中期最高峰の傑作の数々が献呈されました。

曲との出会いは中3の頃、叔父さん家にあったLPでした。ジャケットに付随していた楽譜を目で追いながら聴いたところ、なかなかいい感じでした。

聴きどころはまず**第1楽章の冒頭**。ピアノがベートーヴェンの確信に満ちたフレーズを奏でると、続いてチェロ、バイオリンが息を合わせて追随し、まるで神に祝福されるような堂々とした曲を創りあげていきます。

つぎに**第3楽章**、ゆったりと歌う変奏曲で、3人がお互いに相手を気遣いながら、穏やかに語り合うように演奏する、実にほほえましい場面です。

推奨 CD のスーク・トリオは1952年プラハで結成されました。音色が美しく、清々しいアンサンブルが魅力でした。このレコードは1961年録音の名演奏です。のちに録音されたシューベルトの「鱒」(これも超名盤!)とのカップリングはお得感がありました。(樋口 記)

YMCA コーナー

1. 第31回インターナショナル・チャリティーラン

今年も歩数計アプリを利用したウォーキングイベントとして開催します。

10月15日~22日は「らくらくウォーク」(個人参加)、10月22

~30日には「チームレース」が行われ、現在46チームが参加予定。今年も東陽町の合同チームとして「TEAM 東陽町」が頑張ります! ウェルネス東陽町、社会体育・保育専門学校、にほんご学院、インターナショナルスクール(TYIS)、東陽町語学教育センター、東陽町コミュニティーセンターと、ワイズメンズクラブ(東京むかで/東京グリーン/東京北/東京ひがし)からなるスペシャルチームです。(グリーンワイズを代表して樋口会長が参加!)



2. 第53回全国リーダー研修会

9月23日(金)~25日(日)に第53回全国リーダー研修会が熊本YMCA阿蘇キャンプ場で行われました。「共存社会とは何か」をテーマに全国から集まったリーダーたち



が考える3日間となりました。東陽町・江東から2名のリーダーも参加いたしました。報告会を計画しておりますのでご参加よろしくお願ひします。また交通費サポートをいただきありがとうございました。

3. 今後の主な行事日程

- 10/28「ウクライナ緊急支援チャリティーコンサート」
会場:日本基督教団霊南坂教会
参加費:無料(会場で募金依頼)
出演:飯靖子氏(オルガン)・飯頭氏(ヴァイオリン)・方波見愛氏(ピアノ)
- 11/9「賛助会年会・アドバイザー会」
会場:学士会館
- 11/20「ソシアス2022」オンライン
講演:川平朝清氏(元NHKアナウンサー・昭和女子大学名誉教授)
「沖縄復帰50年と平和について」

(主事 木村 記)